高津之朝ニ昇降し、中は以
近江朝ニ較儷し、下は以
先帝之御遺慮ニ協戮し、宇内之民怡々然として相楽、実
々　皇政之難有を奉戴仕候様有御座度事、

華夷之弁

一洋夷之為国也多は北緯四十度以上之地ニして、冷帯之地雖在其中頗寒帯中之邦国多く、之ニ居る故ニ風候常ニ寒烈ニして五穀不実、木材不秀、蚕繭不生、人性固陋蠢愚ニして人倫を不弁知、故ニ麦稗以為飯、土石以為家、羽毛以為衣、刑律以為礼、蓋以便宜制其宜者也、若麦稗を捨て米穀を食ひ、土石を廃して木材を用ひ、羽毛ニ代ニ絹帛を以し、刑律を変して儀礼を制すれハ、則其弊害益大ニして其費用必可無償補、於是乎其土之所産之者を以其用ニ適し、其俗ニ因て其治を興す者也、故ニ其治也貿易を盛ニして其不足を補ひ、以今日之危急ニ備ふ、草木之葉汁を絞り鳥獣之肉を屠以麦稗之不足を補ひ、玻璃鉛鉄以土石之欠遺を弥縫し、皮革綿布を以羽毛之貴美ニ代換し、酸刻苛烈之刑威以頑陋之風蠢愚之俗を矯正す、其因原を語れハ則蠢爾たる会(禽)獣毛虫之国俗ニして、神祇を不弁五倫を不班、固君臣之義なく尊卑之序なし、然則強は弱を凌き、剛は柔を制し、力大則人を斃し、勢盛則主を傾く、而して其風狡猾妄誕を貴ひ、其俗妖魔怪異を恐る故ニ其制度を定ニ至、則五倫之大経を不論又礼典儀式を不制、唯那(耶)蘇之一罪人を崇尊して君主之貴重を不駁、廉恥之明器を不弁、威儀を軽易して言語を不敬慎、或は共和政治を称し、或は君民共治と唱へ以て今日ニ至り、下国制度之所不得止ニして又以勢形沿革之所令然也、我　皇国之如きハ冷帯三十度ニ起て五十度ニ達し、風候清和ニして五穀繁殖、良材翳秀し、蚕繭綿帛之類純美ニして人物又英邁叡哲也、魚塩之利、茶・楮・漆・藺之便何を求て欠不無、何を用て欠不足ん、実ニ上国中之上国也、其俗は則米穀を貴て牛馬必豆麦を食し、屋室必良材を択て土石を礎壁とす、絹帛綾羅を衣として羽毛以黼黻を

不製、君臣之義正しく父子之親厚く、礼義之風恭謙之俗何そ刑律を事とせん、抑五倫之道大ニ明ニして上下尊卑之序甚厳也、加之ニ儀礼格式盛大ニして文物実ニ可比者なし、是又古我　先皇之依其便宜制其宜者也、今也天地反覆して彼之所卑者は我貴之、我之所卑者は彼貴之、何相反する之如此や、其一二をいへは、則羽毛皮革は彼雖卑之我深貴之、綾羅錦繡は我雖卑之彼実ニ珍之とす、彼又五倫之道を明ニし、礼典儀式を制せんと雖、欲因習之不能矯、風俗之不能効を以不得止、姑息之矯正苟且之制度権輿して、以一時ニ僥倖す、是那蘇教法之以大ニ所盛也、故ニ夷狄有君不如諸夏之無仄聴、洋夷之地広大、人種甚寡少ニして、曠莫之荒野凸凹之禿山荒流之川河夥多ニして、我北海道之如く、僅ニ舟楫之利ある処以人居之地とする、故ニ数千里之鉄路を製し数万里之伝信を通し、珍奇之新聞を発兌する、皆貿易商買之為ニして、嘗而国を開き風を化之道ニあらす、只一時之利を百千里ニ制する之用也、故ニ駅逓之法、租税之則、刑律之典、以甚酸刻なる所也、熟惟ニ方今之御制度　先皇之御苦慮善美尽竭之法制を被為捨、洋夷之姑息悪弊醜体之曲律ニ被為泥、以天下一大正法とし、米穀之美饌を捨て蒸餅を上饗とし、木材之家屋を毀て土石を室宅とし、絹帛之黼黻を廃して羽毛を冠冕とし、礼義之風恭謙之俗を変して頑陋蠢愚之風狡猾妄誕之俗ニ陥れ、又人民聚落家屋稠密之地以鉄路を起し、人馬之馳駆触耳入眸之邦以伝信を通し、英邁叡哲之俗以新聞を示し、却而民俗を賤悪ニし国俗を妄誕ニし、職を失ひ業を廃し、其手足を令無所措、其責又誰ニ欤帰せん、宜哉、毫釐之差千里之過故ニ為政立制者は、先予め邦国之勢形沿革風俗を審察し、又得失利害を称量セハ、雖不当不遠、是故ニ為政立制は治国之最も大難事ニして、亦以興廃存亡之所因起也、是を以夥多之弊費を不顧、鉄路を起し伝信を通は下策ニ雖陥地勢ニ迂遠以不得止也、麦稗之食、土石之家、羽毛之衣、刑律之礼皆以其沿革風俗之所令然ニして、

必所不能矯正也、仰冀は国風邦俗勢形沿革を審察し、政理之得失利害を称量し、御制度被為立候様有御座度事、

司法廃省之事

一凡刑律は為治立制之権勢ニして、聖王明主之必非所頼而為治之器也、然共後世稍すれハ刑律を以天下之大政法とし、人民制馭之大枢器とす、以其権勢ニ生るを不知、何則曩昔帝王之為治也、教化を本として刑律を不必刑措て不用、四民恬然たり、以天下之美政とし、無拱之治字と称す、蓋淳朴之質、加之ニ礼義之風を以し敏捷之性率之ニ恭譲之俗を以す、以治教之第一大体とす、然とも聖王賢臣不世出して人民も亦必不淳朴、是を以政教不一風俗百般なれハ、権以不得不制之権以制之、則勢亦不得不生、故ニ刑律は必先王之非常典して後世為治立制之権勢也、是を以権は不可頼して、勢は必為不可制者、故ニ君子之深所慎戒ニして小人之甚所軽易也、故ニ曰、刑之疑は軽し、賞之疑は重し、殺不辜より寧失不経と、聖王賢臣之深恐て以所垂法制律之者也、何必司法之一部を置て天下人民之死生与奪之権を可擅決哉、我中世　乃楽朝ニ及て唐制を模擬し、其制度を定ニ至て尚　列皇之遺謨を守り刑律之繁濫ニ陥り、権勢之私門ニ傾き、寃罪を罰し不辜を殺すを恐て其官を設也、有弾正、有刑部、有検非使（ママ）、有按察使、有京職、有国守、有大宰府、有鎮守府、以邪正を糾弾し奸悪を拷鞫し、非常を検按し隠慝を発覚し、以各所其任所其守之職務を憤励し、一も不能出其私、其罪按之如きハ必政庁ニ申し、其罪之大小差等ニ因て、或は誅戮竄流し、或は鞭笞禁錮す、是を以仮令弾正独其隠慝を雖欲掩覆、検非使得以之を発覚し、京職窃ニ其罪科を雖欲宥恕、刑部正を取て以不能赦免、按察使・国守之類大概皆然り、於是乎八職各其心力を尽し其職務を奉する正格ニして、一日も其権を一省ニ不有委仮者也、是凡中世司法之制ニして厳烈慎微可謂至矣、尽矣也、源大樹覇府創業爾来北条氏・足利氏・織田氏・豊

臣氏迭興て其変革雖不一、其時勢ニ因り其世形ニ沿ひ其典律を設る、大概朝家ニ模擬て其制を立る者也、徳川氏起ニ及て上代ニ醍醐(斟酌)し、更ニ評定衆を置又有寺社奉行、有町奉行、有勘定奉行、有大小目付、有遠国奉行、有郡代、有代官、以古之八職之宦ニ代換して曲直邪正を糾弾検按するニ供し、如其罪按は則老中ニ申して而必大樹ニ達し、以其罪を断す、其宦職之名位各雖異其非常を警戒し、奸悪を鞫罰するニ至は、曽殊異之不有区別也、以其権を分其勢を制して寃罪を駁し、不辜を宥め疑獄を所不決也、古人之愛民ニ摧心、断獄ニ尽情又実ニ深切也、今也世道大ニ頽廃し、淳朴恭譲之風泯滅して、邦俗妄誕狡猾を貴之世ニ当て、司法之一大省を置又府県ニ裁判所を設け、細大疎密皆之ニ関渉して、無弾正、無刑部、無検非使、無按察使、無大宰府、無鎮守府、僅ニ雖有府知事県令之徒大ニして聴訟鞫問、小ニして非常警衛奸盗捕縛之類、必下手を不得、於是其権力一省ニ帰して裁判所常ニ数万之詔書を錯雑す、判事解部も急決延断を不思念、且以正為邪以曲為直、又以如意なれハ則不辜之民寃罪之徒往而所訴なし、故ニ十年之獄七年之訟有不決者、又有訴而中止者、有断有私而寃怨上者奸慝公行四民大ニ苦む、其刑典之如きハ洋夷之賤劣方法を主として、苛酷酸烈民其手足を無所措、然共雖侵大罪者出其贖金則以得免其死、小罪以不能出其贖金則却而大罪之罰を不得遁、故ニ民雖有可訴之事故不有金貨則不得訴、以無理之損弊を招き、雖有不可訴之証券有銀幣則不理以可為理以占其勝、是幸富人而貧者を害し、貴者を援て賤人を斃す者ニして、府下之民往々其寃苦を悲ミ其貧窶を歎き、其上を怒り其法を恐る、古人之深所慎戒ニして今人之喜て所施設也、是を以闘争は日ニ凝結し、不辜寃罪之所不明也、不有弾正則其私曲を発し其断決を不能糾明、府県ニ不任則小悪其過を無所改、不有検非使則奸悪隠匿し農商之徒所以甚苦也、抑司法之権力一ニ帰して淫刑之所起大害之所以生也、伏冀は司法を廃省し裁判所を止め、

弾正・刑部之二部とし、監督・按罪之二職ニ分又府県ニ従前之聴訟を聴し、其権を分其勢を制し、瑣細之触達を破却し上代を醍酌して新ニ重大之刑典を設け、繁濫を省減して簡略之法章を示し、四民各其肩を休め其居ニ安し候様有御座度事、

大蔵廃省民部・大蔵二省建設之事

一曩昔先王之為政立制也、民部を制して以八省之一ニ置、主税・主計属之以主賦租以統計を令主、而勧耕穡蚕績を励し、天下之困弊を憂ひ、人民之貧窶を恤む、何則国土之壌堉を検して其租を制し、邦邑之所産を科して其税を定む、其歳入を商量して其歳出を定制し、官局之廃置、制度之位置は必之を公平ニす、其川河を疏通し堤防を築造し、山林を翳薈し、陂地を漑灌するハ所以救水旱也、大風堤防を崩潰し、大雨稲穀を流浸せハ、則其形状を巡察して其田租を蠲免し、其産税を省減するハ所以助風雨也、天災流行家戸病ニ臥し、丁壮不能起、田野荒蕪セハ、薬餌施之徭役蠲之所以賑疾疫也、孩穉之無父母耄老之無妻子街衢ニ行吟し、郊原ニ斃臥せは、衣食与之湯薬嘗之所以恤孤独也、不急之官局を不制、無用之土木を不興、租税之方法正格ニして刑罰之典律簡省なる所以宦制之公平也、況哉斗桝秤量ニ於をや、是を以西国之租法以東国ニ不可取、北国之税則以南国ニ不可収、故ニ歳入を商量して以歳出を制し、而後緩急を醍酌して以事業ニ施す、豈歳入を不商量して歳出を可制哉、於是乎無淫官は又無濫政、無用之弊費省減して天下之人民甚富饒也、又水旱之災ニ遠り風雨之禍を免れ、苛酷之租税を不憂、酸刻之刑律を不思、加之ニ無疾病之患凍餓之悲、天下泰然人民鼓腹す、是皇国中世之制度ニして民部之所以在八省中也、未曽民部・大蔵を一省として租税を平ニし、人民を撫愛し出納を慎ミ、華美を禁する者不有也、　皇政衰絶武臣権を取ニ及て勢形一変して、官を置制を定る稍異也、終ニ足利氏ニ至て群雄割拠租税之法章大ニ変して、各国又異也、豊臣氏は又六五之田法を設以其租を増益し、

徳川氏起て其僭恣雖不可挙、尚或は古法を用ひ、或は新法を取て、其変革雖不能無又以民俗之因習ニ順ひ其制を立る者也、故ニ甲斐は制を武田ニ取、越後は上杉ニ取、山陰・山陽は毛利ニ取、西国は島津・鍋島之数氏ニ取て、関東は大概北条氏ニ取者也、其子弟功臣を封し、又各其沿革ニ従ひ其宜を制して以其家邦を令治、其私地之如きハ則有勘定奉行、有郡代、有代官、　先皇之宏謨ニ雖不及亦以人民を維持し水旱之憂を救、租税平等ニして以其出納を慎む、而如其出納は則勝手と名け老中之を醍酌し、勘定奉行之を施設す、而如其勘定奉行は則其職任郡国之事務ニ関渉して、勝手を兼課とする而已、故ニ其収歛を平ニして其出納を慎む、是を以一二之老中、二三之勘定奉行雖有皆所以不得帯之也、又如其営繕土木は則更ニ有作事奉行、有普請奉行、之を取捨して尚有古之修理職、而如統御之今也　御維新之際租を軽し税を薄し、人民を撫恤し刑を省き律を減し、衆庶を慈愛し、以　皇沢を四境ニ及す之日ニ当て、民部を廃して大蔵ニ付し、以纔ニ勧農を寮とす、日者又勧農を廃して租税ニ寮付す、終ニ民部欠滅して先皇之制典糜亡す、是　皇沢之四境ニ不達して　皇室衰頽之機已ニ所発也、抑中古如大蔵は則雖在八省中四方之献貢出納を職務として僅ニ一司之織部を付し、民部之大政ニ関渉して租税を平公ニして人民を撫愛せんや、方今国体時勢を不審洋夷之制度ニ模擬し、兵力を鍛除し民風を賤悪ニせんと欲して議院を設け、司法を置工部を盛ニし、土木を興さんと欲して民部を廃して大蔵ニ併せ、歳入之不足官費之増多を憂て封建を廃し、郡県を興し、国用益欠け外債愈大を恐て、終ニ租税を苛酷ニし刑律を酸烈ニす、而大蔵之権政府より重して県々其号令を苦艱す、是を以人民日ニ怨望し　皇沢四境ニ不及、徒ニ国家之困弊を催進して四方日多事也、是民部・大蔵合省之弊害ニして　皇室衰頽之機已ニ所生也、何則民部を置ハ国土之壌堉を論して租税之厚薄を議し、天災水旱を語て陂地川河之堤防山林岡陵之翳

薈を説、租税は不可増して堤防は不得不事、駅逓は不可廃して郵便必可止也、故ニ大割小割以山梨之一揆を起し、一山之材以豊国之騒擾を醸し、其余秋田・岩手等之小事枚挙ニ不暇、是無理ニ封建を廃して郡県を興し、有用之官を廃して無用之土木を事とし、頗天下之勢形を不審者ニ似たり、伏冀は大蔵を民部之二部ニ頒ち、愛民を本とし省費を厳ニし、租税は暫く旧法ニ復し、藩国郡県之制度沿革ニ随ひ、其方法密記して民部ニ達し、以撫愛之道を興し、土木之築造を慎ミ出納を節ニし、以無用之弊費を省き不急之官局を不制は則国用余あらん、然則仁恤撫愛之道立而国家無困弊之患而皇沢必四境ニ達せん、宜弊害を避便宜ニ随ひ御施行相成候様有御座度事、

郡県不可設事

一曩昔周夏商ニ代て保天下、其覆轍遺漏を監ミ、周公立制子弟功臣を封建し以周室之藩屏爪牙とす、其政衰ニ及て五覇迭興て闘争日ニ盛也、終ニ戦国七雄割拠之勢形ニ馴致す、関東之諸国政廃れ民倦て賢臣亡ひ、頑主起ニ及て秦政一旦ニ僥倖して得天下、宇内之勢形を不察、功臣を誅し佞臣ニ任し、賢良を遠け奸兇を近け、儒者を坑ニし刑名を崇尊し、儀礼を不制典律を不明、封建を廃し郡県を起し、夥大之国財を不厭土木を盛ニし、阿房を造営し、長城を建築し、身死国亡子弟門葉義兵を不能挙、郡県散て抗敵と成、咸陽関中も空く荒墟ニ委す、蓋秦制度之弊害周室衰弱之原由を不商量検按して私曲之法制を設け、徒ニ子弟を不封建功臣を藩屏とせす、李斯・趙高之二小人ニ委任し、基業二世ニ不備を不憂、哀哉、是世体之運行勢形沿革之雖不得止、又郡県政治之弊害也、当是時漢祖之布衣、一芸一能之聞なく、扼腕憤起三章之一約終ニ王天下従て叔孫通、婁敬之徒其典礼を制す、大概周制ニ依而又秦制を醍酌す、故ニ子弟之有王公而功臣之有関内侯以漢室を維持し、以四百有余年之基業を興す、宜哉、蓋其時勢ニ因て其宜を制し、封建郡県並行而其制を立れハ也、如彼

東西洋夷は則又之ニ異也、往昔之制大概封建之治ニ雖似、又封建之治ニあらす、固我邦制漢制之不如而小同大異之有弁也、何則洋夷は其地曠莫数千里ニ跨り、風馬牛も不相及、是を以土豪其一方ニ割拠して其頭領之を封建するニあらす、尚小諸侯錯雑各其地を占る者と何異哉、故其一二を語は則方今之大国として以称誉する英吉利之如き者も、亦其原始を論は則蕞爾たる小国之一諸侯ニして在其間者也、世体之変遷時勢之転換ニ因て諸侯之衰弱を斃し、廃頽を滅し、挨次ニ之を併呑し、以終ニ大貌利太仁亜と号し、始て郡県之制度を建設す、其間已ニ百有余年其心慮を焦煩し、其骨節を暴露し、艱苦辛労又如何そや、故ニ其得を難すれハ則其失を恐る、是を以其人民を掣馭し、其亡君を親撫するや篤衆庶之心意を収攬し、厳律之法令を不得不制立、故ニ如其制度は則大ニ有所姑息而、以制其権、何則自国主至庶人其権百般、或は有君主之権、或は有公侯之権、或は有大臣之権、或は有下民之権、或は有官局之権、於其官権は有政府、有刑官、有海陸軍、有出納、有駅逓、彼我各其権を制して其邦国を維持し、彼我不得相制、是を以国主之尊無上之権雖有、擅ニ執政を不得代換、猥ニ新官を不得制置、大小之事故議官必議之有司則施之、是故ニ国主之尊も不貴、商賈之卑も不賤、以是観之国主之有名国主之無実者也、只位器ニ備る而已、何法制之如此頑陋何王威之如此軽薄なる哉、而大凡西洋各国之制度如此ニして不有大異也、雖然其郡県を建設する、尚且有百有余年而して漸得施之、豈能三五年ニして郡県を可制哉、抑我　邦之為国也、中世唐制ニ模し郡県之政致を施設し、五畿七道各国守を置、其僻遠西国之如きハ又更ニ太宰府を置、九国之頭領とし以諸政を総へ、以海外之蕃閫ニ備ふ、又関東之如きハ則常総野之三州ニ太守を置、尊貴之親王を任し、以東国を管轄し、以出豪奸黠を制す、然共奥羽之二州地迂ニ人頑ニして教化不毳敷を以、更ニ按察使・鎮守府を置て以風を化し俗を遷す、以蝦夷を攘撫する、亦以

厳律也、如其土木は則僅ニ　大内裏を造営するニ雖不過、世道之陵違(夷)幼沖婦女之君遁位早世之主不能無其名族も亦如蘇我・物部・大伴は則其子弟孱弱ニして、又有識英才之徒なし、於是乎政権終ニ藤原氏ニ帰して以世々宝祚之廃立を主り、僭侈を極め終ニ奸雄兇黠をして不軌を企望せしむる所也、是を以　皇政終ニ衰弱し、郡県之治廃して封建之制所以起也、当是時源大樹覇府を創立し、其奴僕を庄園ニ置ニ及て始て封建之萌芽を生し、足利氏起て郡雄之割拠封建之勢形ニ馳趨し、豊臣氏不世出之才を以諸豪雄を芟除して其功臣を封建し、以天子之藩屏とす、徳川氏起ニ及て又豊臣氏ニ模擬し、其子弟功臣を封建し、防禦厳固ニして其制大略慎微備危可謂密而謂其略、則徳川氏元参河之一豪農ニして、戦国之時際一時ニ僥倖し得天下、是を以論、其臣士は則井伊・酒井・榊原・本多・大久保之数輩ニ不過也、語其師旅則兵卒数万ニ不出也、其関原・大坂之闘争を論すれハ、則豊臣氏之臣子を以豊臣氏之臣子を討者也、固未我爪牙を以て不可謂討之、何則収人之臣子而我臣子とすれハ也、故ニ天下静穏之後其諸侯を指示して譜代と称し、外様と唱へ、其帰従之先後を論し、又其名号以関原闘争之先後ニ区別す、其封建を施設するや其譜代を大国ニ封して、以外様之大国を制禦して以徳川氏之藩屏とす、於是乎細川を肥後ニ封して島津ニ抗抵し、黒田を筑前ニ置以鍋島を制禦し、安芸を浅野ニ与へて毛利を掣駁し、前田ニ備ニ越後・越前を以し、伊達を制し佐竹を押へ、上杉を御するニ水戸・会津及ひ庄内を以し、紀伊を以蜂須賀を制し、兼て大坂・堺を鎮撫す、土佐を山内ニ与へ四方之応援を断ち、藤堂之反覆を制するニ尾州を以し、且東海・東山之二道を検す、両池田及ひ松江をして山陰・山陽を鎮し、井伊・酒井之二氏ハ皇城を警固し、其余之子弟功臣を五畿七道ニ分撤して其間隙を弥縫す、封建之制何其如此盛なる、是徳川之孝興僭恣尚封建を制し、以其国家を維持し、敢而無用之国財を費し土木を興し人民撫愛之道を

失はんや、此江戸城之如も亦諸侯ニ課し造築する所之者ニして、何人民之苦難を座視せんや、是又勢形沿革之所以令然ニして、郡県政治之所以不可也、以是観之周之所制秦之所亡、漢之所起、勢形沿革之所令然ニして、洋夷は又各君民之権を制して以郡県之治を起し、諸侯之力を鍛、是又沿革之所以不得止也、是を以　皇政之衰弱源氏・北条・足利・豊臣・徳川数氏之所興廃、又勢形沿革ニ出る者也、今也　御維新之際古今興廃之轍勢形沿革を審察し、制度を立教化を敷、仁恤撫愛を本とし、人民を鎮靖し、弊害を除去し、典礼を建設し、武威を皇張し、洋夷を懾服して　皇国之神威を宇内ニ赫耀し、又封建郡県を併行し、四民之心意を収攬し、其居を安し、其職を楽ましめ、以其勢形沿革を制する方今之急務と可謂也、雖然好事之士洋夷之悪風弊習を師とし、国家之困弊を不厭土木之大業を創し、兵力之衰絶を不意念して、漫ニ封建を廃して郡県之政務を興し、終ニ辱も万代一姓之　天子をして五倫淪没之洋夷ニ効ひ、虚位ニ欲令充、是君子之大ニ所憤怒ニして小人之頗所不恐也、然而　皇国は神祖之邦国ニして勢力以不可傾、　皇位は固　神祖之所制ニして凡下之非所企望、是郡県政治之弊害ニして勢形を不弁知者也、且郡県は無用之財貨を費し、土木之玩器を興し、以我羽翼を所鍛也、収歛を苛酷ニし刑律を酸刻ニする、是我手足を削断する所也、以是観之、封建を廃するは兵勢衰絶之基本ニして、郡県建設は又国家亡滅之原根也、以不可恐哉、故ニ郡県は未不可設之秋也、伏冀は和漢古今成敗利鈍を照合し、洋夷之勢形沿革を観破し、暫封建郡県を兼設して　皇化を鍼敷し、威武を赫張候様有御座度事、

弾正台建設之事

一弾正は監官也、　天子之耳目ニ代換して政務ニ関渉し、治教を匡正し、大臣之柄権を矯制する者ニして、一日も不可欠之職也、故ニ無之、則紀綱紊れ国基不立為其任や是非を匡正し、曲直を覈明し、上は以　天子之動

容進止を監し、下は以王公大臣士民之行状を督し、且朝廷之政議ニ参与して以政教治令を聞見する者也、故ニ儀礼・祭典・制度・律暦・官局之廃置、政令之善悪、朝議之得失を特筆し、又天下之風俗　皇化之及不及を巡察し、加之ニ殺傷・溺死・奸盗・兇賊を糾弾し、不辜・寃罪・刑律之不当を点検し、孝悌・忠良・貞節之不表を見聞し、水旱・疾疫・人民之形状を案書し、天子ニ奏する之職ニして、実ニ非容易者也、是　鳳闕之上、輦轂之下遍く不可知、故ニ　天子先弾正を置て救者之其正を憂不得、故ニ為其職や大ニ為其任や重、是を以中世制宦必弾正其一ニ居、巡察付て其民を愛や深く、其害を避や遠し、是唐ニ有諫議而洋夷ニ亦上下之二院あるか如し、雖然世道之運行幼弱之君、婦女之主不能無、則大臣専権又不能無、大臣権を専すれハ則猥ニ官局を廃置し、擅ニ驕恣を施行す、故ニ弾正之矯正納言之補欠雖有　天子、尚常ニ弱ニ斃て人臣必驕恣ニ長す、是藤原氏之　皇家を無して而源氏之亦　皇家を斃す所以也、有弾正、納言尚且如此、況や之を廃止するニ於をや、是所以紀綱紊れて国基之不立也、故ニ弾正は一日も不可廃之職也、何則弾正は大臣之深所忌憚之職ニして、大臣を制する者も亦出弾正也、蓋し弾正之権能大臣之権を制するハ則固　天子之耳目ニ代換して其居動進止を論し、政教治令を可否し、朝議之得失を申奏すれハ也、是を以自古非望を企る之徒往々其賢徳を黜て佞邪之小人を用ひ、以令無議已以其私曲を制す、雖然未其官を不至廃、今や無納言官弾正台廃して　天子耳目之官を失ひ、下情上ニ不達四民日々怨望して大臣又有不可制之権、是を以国風日ニ廃頽して朝儀所欠損者多し、何則忌憚之官不争制之や不争制之、則大臣其思慮を不得不必行、思慮必行は則擅ニ官局を廃置し、猥ニ制度を変易し　皇化之不官を不憂、兵力之衰絶を不恐、不辜寃罪之不明を不意、奸盗・兇賊之不絶を不怒、稍すれハ洋夷之弊習を崇尊し儀礼を泯滅し、風俗を賤悪ニし、刑律を酸刻ニし、租税を苛酷ニ

し終ニ四民をして其手足を令無所置、是弾正廃台之所致ニして弊害盛大　皇綱将絶之秋也、以是観て其弾正を廃するハ則大臣其思慮を必行はんと欲して也、故ニ其官局を廃置し、其制度を欲変易や先大学坊之小政を廃して皇学漢学を禁し、以時俗之遷移を視而後弾正之大権を剝削して以世体之挙動を察す、於是乎刑部を廃して司法を置、民部を廃して大蔵ニ併セ、終ニ議官を設て其思慮を暴行す、雖然一人之是非曲直を　天子ニ申奏し、其柄権を不矯制は則又終ニ節朔之　朝儀を廃止し無用之暦書を改革し、黻(黼)黻冠冕之制却而毛羽之胡服胡冠ニ変換し、威儀整粛之体貌断髪脱刀して賤悪卑劣之容形ニ潰崩し、　鳳闕箕踞して　行幸之大儀不明、四方一揆騒擾多端ニして尚土木之大業を事とす、是忌憚匡正之無弾正而大臣不可制之所致也、伏而冀は更ニ弾正を置て、外は以四方之風俗天下之治体を巡察し、内は以政教之善悪朝議之得失を匡正し、加之ニ大臣之擅恣を矯制すれハ、則何　皇化之不及を憂ん、何兵力之衰絶を恐れん、何不辜寃罪之不明を意はん、何奸盗・兇賊之不絶を怒らん、於是乎国基立紀綱張一之弾正台ニして天下之得失係之、故ニ方今之急務先弾正台建設ニ在て、而後便宜朝綱御取捨相成候様有御座度事、

皇居旧都ニ可復東京不可都して大藩諸侯へ可任事

一曩昔

桓武帝墜緒を継廃典を挙　都を山城ニ遷し、新ニ平安之号を制し、龍盤虎踞之勢ニ拠万世不易之基を建、赫々たる　皇威を遠邇ニ示し、以四夷を攝服し、巍々たる経国之洪猷を肇め、以黎元を撫化す、数千歳之下帝之英略恢量を尊戴して後嗣之　帝聖明之主敢而遷都を不議、尚　帝之遺基ニ安す、　養和帝福原遷都之挙雖有僅数月ニ不過而已、以千有余歳之今日ニ至る　皇綱衰ニ及而源氏は以是道覇府を鎌倉ニ創し、足利氏ハ室町ニ営し、織田氏は安土ニ於し、豊臣氏は大坂ニ於し、徳川氏は又此東京ニ於す、各其所視ニ因て其制を立以諸豪雄を押圧し、武威を四方ニ展敷す、於是乎東

京は武臣皇権を攘ミ覇業略定之場ニして、武徳亡滅風俗廃頽之墟、宜　帝王之不可都之地也、如豊臣氏四方略定之後徳川氏を関東ニ封し、此地之形勢を鑑定し其居城を築き、其本根を定しむ、東北以上杉・伊達・佐竹・南部之諸雄黠を押圧し、西南以織田・武田・北条・今川数氏之遺民を綏撫す、当是時山野荒蕪、土地未拓人民鹵簿して家屋未稠密、夷蛮之風鄙陋之俗蠢爾たる狡猾之一民風也、故ニ威之ニ重大之権を以し、化之ニ武威之風を以し、撫之ニ愛恤之情を以て而之を制馭す、其衰ニ及て国俗頽廃時勢華美ニ馳て政教不斉一、文武之常典欠遺し、当是時無外患又無内患則民人只治安ニ酔ひ太平を歌て武風終ニ惰弱ニ陥り、人々又俳優を師とす、為其男子や文学を不好、武事を不能、酒色ニ耽り糸竹を嗜ミ、舞曲を事とし、昼は以墨江之水ニ掉し、夜は以芳原之月ニ酔ひ、接人者は容貌を飾り威福を釀を以武威之風とし、在官は数百之従僕を随へ馬を牽輿ニ乗するを以重大之権とす、其家室ニ入則其婦女たる者は蚕織を不勉紡績を不倣、父兄夫子之威蔭をかざし時人を蔑視し、言語を卑劣ニするを以為俗、其言詞容貌を論せハ其父兄夫子之所好ニ随ひ、口尚商娘・娼妓之□（虫損）俗を唱へ、粧は常ニ茶嬢・芸妓之形状ニ擬す、是を以風俗日廃て武備愈衰、華美益盛也、於是世体之因習下は上ニ倣ひ歌舞音曲を専として其生産を不治、勉て華美を事とす、其亡ニ及てや義を懐ひ名を惜之徒なく、血食を不思祖先を辱しめ、其婦女を鬻て婢妾娼妓とし、又妄言を釀し人之財宝貨器を奪ひ、墳墓之地を捨て、或は商ニ帰し農ニ落ち、諂諛妄誕を人之経倫とし、有一人徳川氏を思ひ知恥者なし、其君雖亡枕城而死者なし、失義忘恩甚敷ニ至てハ不忍謂者あり、是徳川氏之亡徳頽廃之風俗、下愚不移真ニ　皇居不可置之地也、熟惟方今　御維新之際　京城之御建設先予地形之遠近風俗を察し、時勢之勢形沿革を審し、而後御盛大之　皇居を造営し、以億兆ニ望ミ天下之仰観以悚懼ニ生而、　帝者之神威人民之心肝ニ所令徹也、今

や　祖先帝王之洪猷宏基ニ背き、如斯武臣亡徳之墟廉恥糜滅之地を以、永久之都とし、以　皇居を定め、加之ニ無用之財貨を費し鉄道伝信を通して未万民仰観之皇居ニ不及、却而洋夷之薄徳君主之居室ニ擬す、是実ニ　皇威之衰滅　皇綱廃絶之基也、仰冀は　輦轂を旧都ニ奉廻し、天下之衆庶を綏撫し、古制ニ復し　大内裏を造営し、千本を南面中央之街衢とし以東西之二京ニ頒ち、且華士卒之邸宅を其四方ニ賜与し、以赫烈之皇基盛大之宏謨を遠邇ニ展示し、　皇化を億兆之衆庶ニ蒙しめ、如此地は大藩之諸侯ニ命し之を鎮撫し、化之ニ淳素朴質之風を以し、圧之ニ廉恥勇武之威を以し、諭之ニ忠実孝敬之道を以し、撫之ニ仁恤愛撫之方を尽さハ、上　祖先之叡思ニ体し　皇威赫燿之余烈ありて、下万民徳化沐浴之美事有之候様有御座度事、

町屋之建築を廃し川河疏通山野開拓之事

一大凡政教を設け事務を施す者ハ、先予め利害得失を覈究し民庶之希望苦艱を商量□(虫損)、且時期之先後施設之緩急を謬誤すへからさる也、何則不可設事業を施し、可施政務を不設、民庶之所希望者を捨て所苦艱者を行は最大之善政、最美之徳教と雖も弊政失教と可謂也、故ニ古之聖王明主は必先人心を収攬して而後教を設け政を施す、是故ニ深民庶之希望苦艱を審察すれハ、則所其苦困者を廃して所我好欲者を不行、是を以智名之天下ニ響き功名之天下ニ蓋なく、政途如矢蕩々として流水之下低ニ就か如し、於是乎民庶得以政教を誹議せす官人を不怨謗、各其職業ニ従事すれハ則米穀穣殖し繭綿繁茂し、物価日ニ賤下ニして民庶之生計不得不安楽、産を破り失業之徒なく又居処転移之苦なし、上は以政教を奉尊し、下は以闘争を不生、天下恬然たり、蓋深民心を攬而時期之先後施設之緩急□(虫損)道を得れハ也、今や五畿八道陂地之灌漑不便は肥墝之土地荒蕪して、畠田却而墾廃し、人民不移住は山野も亦不開墾、川河之隄坊不修は洪水荐ニ泥濫して岸崖を崩潰し田野を洄決して、或は其土田を亡損し、或は沙石を埋め、或は

家屋を流浸し、或は父兄子弟を亡失し、民庶之所苦艱損亡者万を以数ふ、是を以米穀年月ニ減耗して繭綿又随て欠損すれハ、則物価益貴騰して民人又其職業を楽ミ其居宅ニ不能安、雖然方今之政教人民救助之制法を不設は、一も民庶之希望ニ充実して陂池を灌漑し山野を開墾し隄防を修繕するニ不及、何を以時期之先後施設之緩急可謂得其道哉、且其人曰、邦家争事国用亦凋弊なれハ五畿八道悉以一時ニ造築する不能と、猶民庶之所苦艱不審察者ニ似たり、由是観之時期之先後施設之緩急を審ニするハ、則民庶之希望苦艱ニ係り、其希望苦艱を察するハ則政教之利害事務之得失皆之ニ関すれハ也、方今天下有事之日ニ当て僅ニ火防一個之利を貪り巨万之財貨を費し、市廛之家屋を建築し、民人をして其産を破り、其業を失ひ其居処ニ離れ、其憂患亦以甚大ならしめ、所損益大ニ所益愈鮮く、且民庶之怨謗誹議終ニ政教変革之偈(渇カ)望を催進する、豈善政徳教と可謂哉、伏而冀ハ方今之急務先市廛之建築を廃して租税之方法を寛裕し、以商工各自由之居宅を構し、又其恒産を制興し、其職業を勧勉し、其建築冗費之如きハ則陂池を灌漑し隄防を修繕し、山野を開拓せハ則商工ハ其居拠ニ安して各其利を占、民庶は水旱之患害ニ免れ、土地荒蕪、畠田墾廃、家屋流浸、父兄子弟亡失之禍害を除去せハ、則米穀之穣殖繭綿之繁茂必可見也、然則物価日ニ賤下して其生計不得不安楽、於是乎　皇沢四海ニ洽して民庶之歓喜、上は以政教を奉尊し、下は以闘争を不生、天下恬然として何政教を誹議せん、何官人を怨謗せん、必や政途如矢蕩々として水之下流ニ就か如なるへし、豈政途之変革を渇望せんや、是を以政教之利害得失は民庶之希望苦艱ニ関し、其希望苦艱は又時期之先後施設之緩急ニ係れハ、則政教を施設する必時期之先後施設之緩急謬誤無之候様有御座度事、

奥羽等之川河堤防築造之事

一大凡人民之所苦困水害最為大而其目を論せハ、南国ハ屢大風霖雨ニ出て又潮汐之満干高低ニ生す、北国は大

風霖雨雖有潮汐炯(洞)然之満干なし、然共消雪之日暴疾競起之変あり、故ニ其変を検して其宜を制し、其水勢を察して其水形を定め、其地理を審ニして其堤防を厳ニし、又陂池を便ニして其災害不得不避、故ニ陂池堤防ハ一日も不可忽して政務之最大なる者也、蓋南国ハ常ニ潮汐風雨之変故不断を以て堤防最厳固也、北国は風雨之憂患雖不能無、僅ニ消雪融水之禍害ニ関する耳、是を以南国ニ比すれハ堤防稍不厳、且土地広大ニして人民寡少なれハ、此土を捨彼地を取之便あり、是則堤防之以不厳固陂池之不灌漑して、而山野之又不開墾所以なり、故ニ水旱之災害ハ陂池之不便、堤防之不硬ニ生て人民之苦困聖主之哀愍を垂る所也、是を以曩昔聖明之主起治必先陂地(池)を便ニし堤防を硬ニす、封建之治起ニ及て諸侯各其便宜ニ従ひ、制を立、於是乎　朝廷も不能可否、幕府も亦不是非、則陂池之灌漑堤防硬固之邦あり、又此を不設彼を不築之国あり、又或は諸侯之地相接して大河流帯隄防之論不決して水涯之郡邑甚其害を蒙者あり、又或は其境土を広と欲して挨次ニ其下流懦弱之勢を制し、埋築して以田土を設け、其災害を招致する之藩あり、西国之千年(筑後川)、東国之利根及ひ奥羽二三之川河以可微也、其千年之如きハ上流豊後ニ出て二筑一肥を縈洄して海ニ入、則其川河大概四藩之地ニ接せり、是を以其上流を商量して其下流を不能制、何者藩政之制不同、則治水之制も亦不得不殊異、故ニ久留米之堤防厳なれハ、佐賀又不得不硬、然則柳川・秋月も亦各其水勢を避て我便利を占、是故ニ歳月川河隄防之論齟齬して、水涯之郡邑大概其災害を不蒙者なし、彼利根之如きハ又是より甚敷者ニ似たり、何則昔日水戸之先侯其境土を広めんと欲して、其下流休水之広地及ひ其水涯幾千町を瘞埋して以土田を制せしより、爾後水害愈増多して霞浦・北浦等近傍之田野潰亡数千町ニ及ひ、其他両野常総武之人民年月其災害を蒙り、其沃田を亡失し、其家屋を流毀し、其子弟を死傷し、破産失業之徒枚挙ニ不暇、是を以幕議曽て印幡湖水を疏

通して江戸川ニ注瀉し、且日者屢鹿島を横断して以派流を制し、其水形を変し、其水勢を弱と欲之議雖有、土地之高低位置之論あり、以今日之実用ニ不及、又水理を治之法を不知、又奥羽二州之如きハ則土地広大なれハ大河亦数流あり、其魁を論せハ、安布隈（阿武隈）・最上為最して北上・真部・各本庄・戸島・野代等之川河悉隄防不硬固、則年月所崩潰之土田、所破壊之家屋、所死傷之人民万を以数ふ、是を以米穀之減損土産之欠耗又如何そや、雖然土木之議是不及此して、且無用之財貨幾百万金を費して、鉄路を制し伝信を通し、又燈台を築き市廛之家屋を営して税租を苛酷ニし、刑律を酸刻ニして、隄防陂池を廃棄し、人民之死傷を不愍、米穀之減損を不患、土産之欠耗を不顧、抑起治之道を不知者ニ似たり、故ニ起治は先水旱之災害を除去して、人民をして其居ニ安せしめ、山野・川河之位置を検按して陂池を便ニし、且其水勢を制して其水形を定め、其隄防を起すニあり、雖然隄防硬固之備雖有不得其道則災害又生之、何者利根・千年二大河之如く或は四五州ニ跨り、或は三四州ニ拠り、其水涯之郡邑年月其害を蒙る者は、水理之本然を不得して大概下流狭少ニ落入、上流之水滌注瀉不得其宜也、又其堤防を棄徹せハ其害愈大なり、何則彼奥羽二三大河之如きハ堤防之装置不硬固は、其崩潰を不厭、又其修繕を不加、則其水勢或は沃田を覆没し、或は民屋を毀壊して、以川河となし、又其水流数派となり又沙石鬱蓄して以其間隙を弥縫す、故ニ昨年之崩潰今年之川河明年之形状又不可知、是故ニ人民之所苦困水害最為大、以是観之水害ハ大ニ堤防之有無ニ雖関、其位置ニ於て亦実ニ為枢要、是を以五畿八道之地往々水害を蒙る者ハ悉此二者ニ不免也、伏て冀は方今之急務先無用之冗費を省減して陂池を灌漑し、堤防を築造し、人民之患害を救助するニあり、故ニ水理を欲治則先上流水派之起伏を検按して、以其下流を決瀉疏通すへし、是を以千年之如きハ四藩之所為を検し、其上流水勢之強弱を察して以其下流を制し、

柳川・佐賀之境界を広闊ニして秋月・久留米之堤防無私、則以其水害を可避以其水理を可治、如利根則常総二州之地を削り、関宿より以銚子ニ及し、川河を広闊ニするニ三百有余間を以し、其土塊霞浦・北浦等之江湖を塡埋せハ則所其削之地以可補、然則其経営甚容易ニして、鹿島を横断し江戸川ニ注決する之大難事あらんや、将五州之人民救助之最大仁政ニして、豈火災防禦等之小政ニ可比哉、且奥羽二州之如きハ其県官ニ令し堤防を硬固ニし、陂池を灌漑せハ、人民必其患害ヲ免れ蘇生して其業を楽まん、山野開墾して土産繁茂し、米穀必穣殖せん、然則一之隄防ニして富国之道大ニ興り、何財貨之乏絶を憂れん、依て便宜を以利根を本とし、奥羽二州堤防築造相成候様有御座度事、

華士族商賈禁止之事

一政教を設るハ興治之本、風俗を化するハ安民之始なり、故ニ大ニ品位を確定して其等類を令無紊、是を以昔日先王之立制経国や、先衆庶を士農工商之四民ニ頒ち、各其職を制して其業を授く、於是乎商は其有余を以其不足を補ひ、北国之所産南国ニ運輸し、東国之品物西国ニ転輳し、且貨宝之融通を主任とす、工は人庶之家屋を廡架し、山河之堤防を造築し、飲食及ひ屠割之器械を製造し、而其他百工を装作す、農は四時之序を不愆、百穀種芸を専務とする者ニして、士ニ至てハ又大ニ有所異之、為其職や、君主を輔佐して民庶を掣馭し、政教を毓敷して風を淳し俗を美ニし、人民之闘争を鉗制し、廉恥を精礪せしむる者也、故ニ平常所為其業文を経し、武を緯して以人倫を明ニし、義を本とし、信を厚し以人綱を正し、敢て我職を超て人之業を奪ひ、我務を捨て人之職を取あたはさらしむ、是を以事物充足して生計安楽也、而して為其物や欠耗を不招、為其職や雑沓を不来、品位大ニ確定して敢て其等を超て其位を不僭、其爵を捨て其職を不奪、貴者ハ賤者を不掠、卑者は尊者を不凌也、故ニ商ハ工を不兼、農は士を不傚、士ハ商を不帯、工は農を不為、各其業ニより其職

を異ニすれハ、則人民鬪争を不生して品物有加多、凍餓貧窶を不憂して政教無不美、是を以天下泰然として無不平安、今や封建之政治始て解、天下郡県ニ帰し、士も不士、農不農、工不工、商不商、於是乎商ハ騎馬ニ鞭ち、農輿車ニ乗し、工袍袴を纏て、而士ハ却て不帯刀・脱袍袴之商を効ひ農ニ帰して、以文を捨武を不講、信を忘れ義を失ひ、何そ礼譲を知らん、何そ廉恥を思ん、何そ君臣父子之人倫を弁せん、雖然方今之議者是醜風弊俗を以文明之開化とす、妄誕狡猾之世体進漸して商は同職之日ニ増多を苦困し、農は田地之月ニ省減を悲哀し、工ハ職業之年々空竭を慨歎し、士ハ只勤務を忘却し他職を侵冒し、以其廉恥を不弁、政教之雖不得止実ニ可堪慨息哉、何則四民相交換して好て是不在為之、方今制度之所令然ニして又将ニ将来を如何せんとす、語曰、道之以政、斉之以刑、民免而無恥、雖然或之曰、郡県之治体洋夷得其正、是を以方今之治体大概洋制ニ雖有倣、窃聞、洋夷亦四民ニ区別して以其治を興すと、故ニ「アトミラール」ハ王族之宦ニして諸臣不得任之、而執政其他文武之官ニ至迄商工農卒又以不任之、則商は必商ニして工ハ必工也、雖然士只其職を捨を聴て其商ニ帰るを不制、其農ニ入を不禁耳、何そ四民ニ不区別而可興其治哉、伏て冀ハ方今之政教務て先王之制度ニ従ひ、大ニ上下之品節を正し法制禁令を厳ニし、農ハ為農之業を不廃、工は為工之職を不怠、商ハ為商之務を不忘、士は又其位を不瀆其身を不辱、則品物有余上下之礼経又以可有節、是治国之大体也、故ニ先華士之商賈を禁止し、文を学ひ武を講し礼譲を弁し、廉恥を在令議、是を以農工商ニ及し、各其職業を廃し、上を凌き位を僭し、輿馬ニ跨り袍袴を穿ち、人車馬車ニ乗するを禁し、農は農ニして工職を不侵、工は工ニして商業を不兼、商は商ニして士位を不冒れハ天下泰平ならさるを雖欲不可得也、故ニ政教之基礎は四職不紊濫ニあり、而立其制や先華士より施すニあり、華士若其爵を捨て商ニ効ひ農を学はゝ、則其

位を除き其禄を剝ん、農若其業を廃し商を為則其田地及ひ其家屋を没入せん、工若其職を棄商をなし農をなさハ、則其便宜を取捨して其一職ニ帰せしめむ、商若其務を忘て士位を侵さハ、則其罪を糾して其悪を懲ん、然而して上下之品節大ニ有序て其職業不紊濫、則治教之基也、宜華士之非薄商農を禁し本然之職務勉励候様有御座度事、

募兵之事

一名器は経国之要ニして品位は又治具之器也、以一日も不可廃也、蓋無名器則事物混淆して職業紊乱し、無品位則上下之品節不明して尊卑之班序不正、是を以先王之治国や先士農工商之四民を制し、各其職業を頒授して以名器を正し、公卿大夫士庶人之班序を頒て以品位を明ニす、而後教を設け政を施し、各其職を収て敢て其節を令不越、於是乎士ハ則世士ニして農ハ必世々農なり、工は則常ニ工ニして商は必常ニ商也、敢て我業を捨て人之職を襲不能也、況や士之商を師とし、農之工を学ひ、商之士を僭するあらんや、是先王之古典ニして実ニ不可廃や、方今封建之勢始て解、天下郡県之治を主とし士農之民綱亦弛て士は不士、農不農、工不工、商不商、海内挙兵也、若一端有事則丁壮為兵無事則農商ニ帰すと、故ニ士ニ耕穡商賈を聴し、工商ニ輿馬を免し、以兵を農商ニ取、士を却て郊野ニ捨すこして可疑者ニ似たり、何則農は常ニ播種収獲を以道とし、商は兼て利得損失を争を以職とし、工は必造築陶冶を為を以業とし、士は独文を学ひ武を講するを以務とし、在官則其職ニ任し在軍則其死を軽する者也、蓋此四民は各其職ニ因て其業を異ニす、故ニ曩昔之歴史を按するニ、大臣皆有門地凡人不得任之、大伴氏ハ道臣之胤、物部氏は可美真手之裔を以二氏世々為大連、藤原氏ハ天種子鎌足之子蔭を以世々輔相ニ昇る、何卿相ニ有門閥士農ニ可謂無其門地哉、故ニ平氏は　桓武帝ニ出て源氏は　清和帝ニ出、佐々木氏は　宇多帝ニ出て北条氏は又平氏ニして葛原親王を祖とし、泰衡氏は武智麿

之胤也、　後醍醐帝之朝ニ当て北畠・赤松二氏は具平親王を祖とし、楠氏は　敏達帝を祖とす、新田・足利之二氏は義家之裔ニして、其党隷脇屋・桃井・仁木・岩松・大舘之数氏は又新田・足利之二氏ニ出て、名和・児島・菊地之数氏も亦　皇裔大臣之遺孫也、是を以方今之華族と所称之者其祖先を論すれハ、大概　帝王之系統ニあらされハ、必輔佐功臣之子裔也、而其歴代を観れハ或は世々高位ニ在、或ハ其中世民間ニ雖有陥世運隆替之日、或は其祖先を憤し、或は其時世を慨し、文を学ひ武を講して以其君を佐け其家を起す者也、故ニ自古士は常ニ士ニして商は常ニ商也、商之子不有士、而農之子亦不有士也、蓋先王之制名器不仮人而品位有節也、故ニ方今為士之子者は始生必文武を講究するを主として、農子は必携鍬鉏禾穂を収るを分とす、工子は則其百工父祖之業職を守り、商子は常ニ利得損失を論して義之為義を不弁、礼之為礼を不知、死亡必遁避して生存則闘争す、何そ恩義を顧て其死を有潔哉、方今之朝議頗有可疑者募兵是也、何則兵は非玩器又非威器也、農工之固非所企望、而又商賈之敢て非所与及雖然今や文武講究を職とする士大夫を空郊野ニ捨、孱弱ニして不知義不思恥、工商之子弟を擢て兵員ニ充、以外洋夷を攘ひ、内四海を撫セんと欲す、恐くハ不可能也、且三善清行之封事ニ曰、　皇極帝之時備中邇麻呂郷ニ勝兵二万を置、天平中ニ課丁有千九百余、寛平中ニ有老丁二人、正丁四人、中男三人、延喜中ニ無有一丁衰弊之連一郷可以知天下也と、当是時王権赫烈として四海無事也、雖然識者猶兵勢之日ニ斃弱を論す、方今外患最大ニして四方多事、何そ現存之兵士を廃棄して農商とし、以我兵威を陵弱し、而　王威を令又以衰頽し　王権終ニ土塊ニ委せしめんとす、可堪慨息哉、以是観之、士ハ苟も農商ニ不可令帰して募兵は実ニ士之子弟を不可不取、何者文武は其生平所講究ニして、始生之固所為分也、工商之徒敢て非所企及、雖然其子弟虓武之者を擢、士之不足を備補するハ雖不得止、士

を捨て工商を取は恐くハ　廟議之失策、猶螳螂之斧を以龍車を圧か如し、何有益哉、而強を変して弱とし、剛を捨て柔を用ひ、義を棄恩を忘れ、退を栄とし、進を愚とす、孱懦を本として死傷を恐懼し、以武威を可皇張哉、且窃聞、東西洋夷も亦侯伯之子裔は則侯伯ニして、兵士は則世ニ兵士也、敢て商賈之徒昇之其政教ニ不得与代て其兵士ニ不得入、士は士也、農は農也、敢て其任職を襲冒するを不得、洋夷尚然り、況や我上古之兵制必有其門地、而模糊(模)義を忘れ曖昧恥を忍ふ商賈之徒其兵士ニ編入するあらんや、故ニ方今募兵之制先皇之宏謨ニ基き、先名器を正して而品位を節ニし、天下従来之兵士を募り軍団を編し、束伍を制し軍律を正し、武備を厳ニするニあり、然則士家因習之易編制と将此兵士を以、則其用ニ適する之有便て、豈工商を兵間ニ編入する之有難事哉、何者其工商を挙ハ必先文を倣し武を講せ令るニあり、而後束伍を編制し軍律を格正するニあり、然則兵之錬熟数月間ニして非所能は、又許多之歳月を待すんはあるへからす、而外夷を鉗制し四方を鎮撫するニ於てハ、尚幾百年ニして以其地ニ至るあらんとするや、仰冀は方今徴募之軍団商賈之徒其撰ニ在る者は、先免解して本原之職務ニ令帰、以従前之武士を編せハ教導之難事なく、則一団之兵士ニして以外夷を討伐し、四海を鎮撫する、尚千仞之石を以畳卵之上ニ投するか如し、何そ兵士を工商ニ倣習して以敵ニ可勝哉、然則士は益其士務を励て無失其職、四民各安其業ハ国富兵強く、天下不静謐を雖欲可得哉、因て　先皇之宏謨ニ基き旧来之兵士を編立し、兵制御施設相成候様有御座度候事、

狩猟之事

一大凡蒐獮は　先皇之定制武事を講し祭祀ニ備る之為、且経国立武之術ニして　王家将門之所不忽也、今也狩猟之法制久しく廃して武備頽弛し、将士之材技不顕れハ隷卒之勇怯又不明、徒ニ軍兵之名ありて束伍隊旅之編制不精、然則治兵振旅之規矩又廃頽す、是を以陸軍

不振、兵士不競、国威日々孱弱なる所以なり、故ニ蒐
獮は必不可不興、治兵振旅は則不可不為也、以武威を
矯正し以国勢を皇張し、而洋夷をして懾服せしむへし、
左氏伝ニ曰、春ハ蒐し、夏は苗し、秋は獮し、冬は狩
し、皆於農隙以講事也、三年ニして治兵し入而振旅し、
帰而飲置し、以軍実を数へ文章を照らし、貴賤を明ニ
し等列を弁し、少長を順ニし以威儀を習す也、鳥獣之
肉俎ニ登り皮革歯牙骨角毛羽器ニ登は、則古之制ニし
て凡物は以講大事、其材は器用ニ備へ、君は以民を軌
物ニ納る者也、故ニ講事以度軌量取材以章物采る、蓋
大事は謂祀与戎也、我上古之制又如此、是を以天神を
祭し地祇を崇す、必鳥獣を薦俎す、於是乎　大嘗之祭
典尚鴻雁之饌ありて、諏訪之神祭猪鹿之犧牲あり、其
余之神祭又禽鳥俎豆ニ不能不登、而狩猟武事を講する
古史以可徴也、是を以源頼朝は一廻富士野ニ狩し、二
度奈須野ニ猟し、其余秩父山猟之類大小数多也、蓋方
今之所謂遊猟頼朝好て之をなすニあらす、一は以武事
を講し、二は以諸国之兇黠を威し、天下之武備を検す、
三は以将士之勇怯材技之優劣を鑑ミ、臣子之名姓を認
と欲して也、加之ニ有犬追物、有笠懸、有流鏑馬、其
余射騎之類大ニ行ひ、以武備を厳ニし以武功を励す、
褒賞有余て黜罰有加、是源氏・北条氏之所興隆ニして、
以武を緯し文を経す、又可知也、爾後足利氏之侈惰、
豊臣氏之豪邁尚其遺法を守り、田猟馳驟之儀あり、徳
川氏興ニ及て伊勢氏は其式礼を以世ニ鳴、小笠原氏は
又其流派を唱へて各三騎射之射法及ひ古実を陳し、又
馬ニ有八条流有意如流、弓ニ日置之数派ありて軍法又
北条・山鹿・武田・上杉・長沼之数家ありて、以束伍
城勢陣隊闘争等之武功を論して、以或は錬兵場ニ施し、
或は田猟ニ設て以其攻守を鍛錬し、其束伍を編して以
其隊旅を習熟す、其政衰ニ及て猟狩之法制終ニ廃弛し、
射騎之格法又不明、方今御維新之際外患最大ニして邦
国事多し、封建之治解け天下郡県を仰き、兵器武庫ニ
蔵り、武士又農商ニ帰す、雖然錬兵場日ニ加て屯兵所

月ニ増し、兵士却て省滅して武備亦弛ミ、法制不明、人庶遊惰ニ耽り、宮闕之衛士鎮台之府兵大概遊里ニ不投、必酒肆ニ酔ひ、浴室之阿嬢ニ不戯、必茶店之阿娘ニ拳恋(眷)す、以士之不知為士兵之不知為兵、以非常を警衛し奸兇を制禦せんと欲、実ニ可疑者ニ似たり、而其日常之課程を論せハ、則僅ニ喇叭を嘯き隊伍を備へ、児戯を為を本務とするニ不過而已、故ニ将士之勇怯材技之優劣不明、何そ束伍之整粛陳隊之規矩を論せん、何そ堡壁之制城勢之縄墨を弁せん、況や攻守之勢形奇正之闘争ニ於てをや、豈外洋夷を攘ひ内兇黠を制せんと雖欲可得哉、仰冀は　先王之定制ニ従ひ墜緒を継き、於農隙四時狩猟之儀を興し、衛士府兵を大発して京堵若くハ近傍之山野ニ田し、

至尊臨御之し、其勇怯を試ミ其優劣を視し、其隊伍を観し、其機変を察し、其姓名を認め、或は褒賞し或は黜罰せむ、則将士大ニ有憤励而隊伍之編格号令之施設必有規矩、然則攻守之勢形自明ニして、而奇正之機変又可審、以洋夷を攘ひ以兇黠を制す、何之苦艱か此あらん、然則一之田猟ニして強兵之基礎立亦以不大哉、否、則軍兵徒ニ鈍挫而勇怯不明、材技之優劣不班、則隊伍不整、何そ攻守之勢形奇正之闘争を弁せん、然則洋夷を攘ひ兇黠を制す幾百年ニして豈能得施哉、因て便宜を以狩猟之儀を制して治兵振旅之法制を施し、且軍兵之勇怯を較し、材技を令闘候様有御座度事、

外夷通商長崎・横浜・箱館之三港ニ滅却之事

一貿易商賈は貧国之所為ニして、富国之好て非所為也、何者国貧ニして不為之則国用不足、人民凍餓す、為之則品物充足して国用有余国以所興富也、国裕ニして不好之則国用充足し貨宝有余、好之則品物滅耗し貨財虚竭して、国終ニ不得不貧、実ニ不可不察なり、我　邦は宇内之美国ニして文化・文政・天保之間を観ニ、外夷之無憂患ハ又政体変換之事故なし、而奢侈又今日ニ不及、外国交通之如きハ僅ニ漢土・和蘭之二国ニして、其交場は長崎之一港ニ不過也、而皆交易を主として商

賈之道を不以、故ニ国用充足して品物有余、価踊又以賤下也、嘉永爾来徳川氏政大ニ衰て魯夷・英蛮長崎ニ輻輳し、亜戎又下田・浦賀ニ来往して終ニ横浜・箱館之二港を創し、又大坂・神戸ニ及て終ニ新潟ニ至る、以貿易商賈を盛ニす、凡是六港皆百蛮と互賈通商して、各其益を買其利を求んと欲、雖然万国輸送之品物愈増多ニして、我物産ハ又其百分之一ニ不充、是を以物価日ニ貴騰して国用不足、人民華美ニ驟て国家凋弊し、破産失業之徒多し、然則物産は日ニ減耗して貨財は又虚竭す、於是乎穣稔之五穀繁茂之品物雖有、我狭小之地を以万国広大之邦と利を争は、宇内之小国仮令雖欲不至疲耗豈可得哉、抑洋夷之為国や、英吉利は北緯十有余度之地を有し、其経十二三度を帯ひ、魯之地は二大洲ニ跨り、米国は其緯二十有余度之地を保有して、其経六十有余度を兼併す、其他仏朗・以太利・日耳曼等之邦国皆数十度ニ亘り加之ニ、或は印度之地を領し、或は米地之郡邑を略定し、或は澳国之諸県村を兼併して以利を千万里之外ニ争ひ、益を瞬息之間ニ占む、我邦之地方東西六七百里ニ不充、南北七八十里ニ不過、仮令夥多之生産雖有尚西洋万国ニ比せハ九牛之一毛も多を不加也、且商賈之道、貿易之法を不講究して徒ニ是狭少之地有限品物を以盛ニ六港を開き、無限広大之万国と并立して大ニ商賈之道を欲興、恐くハ其後を不能者ニ似たり、故ニ曰、国富て好之則貨財虚竭し、品物減耗して国終ニ不得不貧と、以是観之ハ、外国交際は実ニ国家之凋弊を催透するニ在て、武威之衰絶を競起する者也、故ニ国家之凋弊を憂ひハ則貿易商賈を禁するニ不如、武威之衰絶を慨すれハ則外国交際を絶ニ不如、故ニ貿易商賈を欲禁ハ則其交場を不可不省減、其交際を欲絶ハ必威するニ武力を以せすんはあるへからす、雖然方今之勢未た不可鎖交、又商賈交易を不可禁、而国家日ニ凋弊ニ迫る、可勝慨歎哉、凋弊も亦所苦困、交際も亦所忌憚、今日之景況深不可不審也、是故ニ商賈貿易は不禁則国家愈凋弊し、外国交際は不絶

則武威愈衰絶す、凋弊を救へハ則闘争立生し、闘争を憂則凋弊を催進す、故ニ取捨之理施設之術如何と顧る耳、雖然凋弊は久敷不可為、凡天下国家之争乱皆之ニ基て、早く其慮を不為ハ終ニ不可理、以国を亡し天下を失ニ至、実ニ不可不恐也、抑本邦之凋弊は其武威之衰弱ニ雖生、外国交際ニ成り又其因貿易商賈ニ雖出、開港増加ニ極る、故ニ方今之急務外国交際を慎むニ在て開港之多寡を注目するニ在、而又貿易と商賈と不可不区別、何則貿易は我有を以彼か無ニ易へ、我無ニ因て彼か有ニ替、是を以為其事也、我品物を以彼之品物ニ交換して幣貨以之を買求するニあらす、財宝を取て之を売却するニあらす、故ニ其元価不明、其元価不明則我一以彼之十を取り、我十以彼之一を雖納事ニ不有害也、仮令ハ一枚之氈布・一脚之椅子、我錦繡以て之を替易すれハ、則所損雖大財貨彼ニ不入して錦繡は又我之自産也、且人庶容易ニ氈布・椅子を不用ハ雖無利益損失と不可謂也、氈布・椅子雖賤価之を買求すれハ則財貨彼ニ入、人庶苟且し以華美ニ長すれハ則雖無損失不可謂有利益也、故ニ貿易ハ商賈ニ比れハ稍善美なりと雖共、所詮国土之広狭、人民之多寡、生産之多少を検し、以開港多寡之景況を審察し、輸出輸入を計り、貿易商賈を制則無用之品物不入而人々華美を事ニするなし、我産物有余て価躍賤下ニして人民生計を可安、雖然今や邦家凋弊之日ニ当て国土之広狭を不図、人民之多寡を不弁、生産之多少を不検、輸出輸入を不算、又交易を不以、皆商賈を主則交場六港ニ跨り、輸入之品物無用之玩器月ニ増加して、我生産は日ニ空竭す、而価躍又以貴騰ニして人民皆華美ニ長す、国は雖大富は雖無窮欲不貧豈可得哉、是我邦今日之勢也、伏て冀ハ方今之急務天下之疲弊を救ひ武威を皇張せんと欲す、則先大坂・神戸・新潟之三港を廃して、長崎・横浜・箱舘之三港ニ減却し、各国之公使ニ諭ニ礼を厚し義を重し、辞を正して以国家凋弊之謂細小之地方以六港を開き、通商不能之理を挙け、以我武威を示し、以彼之

挙動を観察し、天下之人庶をして質朴倹素を旨とし、驕汰華美之禁衣食、室宅之制を厳ニし、洋夷之食料・器品・衣服・玩器を禁し、盛ニ諸国之生産を興隆し交易を主として通賈を制、則富国之道立て国用充足し品物有余、価躍下落し、政務賑恤之事業ニ不渡して下民自産を興し職を守るへし、然則泰平之基礎立て強兵之域可及、速ニ三港廃止之制を施し交易之法を設け、商賈之業を禁し富国之道相立候様有御座度事、

外夷錯交之事

一君子之大ニ所憤怒之者は、小人之大ニ所好欲之者ニして、君子之甚所冀望之者は、小人之最所忌悪之者也、何則小人は只己を利ニ不過耳、故ニ其量小其職卑し、是を以天下之安危存亡之機ニ暗して治乱興廃之理不瞭、在其位や一時之姑息を冀望して苟且之偸安を僥倖す、武威之衰絶を不慨して国家之顛墜を不厭、在其官や彼我之弁不明は刑典を酸刻ニし、民庶之憂喜を不顧は租税を苛酷ニす、売君以我欲をなし国を亡して以我私を制し、五倫之道を廃棄して廉恥之風を糜滅す、為其事や野蛮之風卑陋之俗を尊ひ、国家之勢力を不図して鉄道を起し、伝信を通し燈台を築き、市廛之家屋を造営し、華夷之婚媾を許し、共和政治を談して終ニ　天子之廃立を議せんとす、況や我邦国之衰頽生産之減耗、物価之狂貴人民之苦艱を思念せんや、古我上世上下之品節大ニ正して、四民之洪綱亦明也、米穀有余て品物充足し、華美浮薄之禁甚厳ニして、衣食住之制又密也、故ニ国体不毀損して風俗賤悪ならす、洋夷震懼して敢我海門を不過、武威赫烈ニして漢蘭之二国貢を不絶、士民は廉恥を重して法制は刑典を不煩擾、無益之玩器を不制、無用之冗費を不招、物価賤下ニして人民生業ニ安す、文政・天保之間尚可観也、方今入洋者往々彼之華美を褒談して　皇国之卑陋を放言す、必（畢）竟是等之言政体之所令然ニして、抑外国和親之失策交接之為害や甚大と可謂耳、而為其交接や徳川氏之盛時ニ不成して政柄衰弱之時際ニ競起す、　神明之世未曽所不聞也、

蓋井伊・久世・安藤等之小人一時之姑息苟且之偸安を僥倖し、　皇室を不尊崇して私智を逞し、徳川氏を不顧念して我欲を成し、終ニ魯夷・英蛮・亜戎ニ困迫窘却し、以横浜を創し箱舘を興す所以也、我文明以之を開ニあらす、我豁如以之を入るニあらす、武威衰絶而国勢挫鈍し、力極而後成者也、雖然方今之議者猶秦檜・王淪を墨守して文明と号し、開化と称して時人を籠絡し、洋夷之僕隷となり髯奴となり、尚不顧、終ニ南宋之敗轍を欲令蹈可勝慨歎哉、是君子之大ニ所憤怒ニして、小人之大ニ所好欲之者也、而議者又曰、富国ハ強兵之基、国不富ハ兵不強、商賈は富国之本、商賈之道不起ハ国不富と、而商賈は洋夷之最所能也、彼を不師ハ我一日も進歩する不能、故ニ北魯夷ニ諂ひ、西英蛮ニ諛し、東亜戎ニ親ミ、往々商店を開き公使を遣し、以我貨財を費し我物産を減し、価躍古ニ百千倍ニして我人民之困苦艱難益大ならしむ、強兵之本は諸侯之権を奪ニ在、四民之綱を断ニ在、故ニ洋夷之法制ニ倣て封建之治を廃して郡県之制を創し、士を賤し商を貴ひ農商を擢て兵員ニ充、士卒を停て農商ニ帰しむ、纔ニ束伍を編制して兵隊と名け、喇叭鼙鼓を教誨して楽隊と号し、国勢は月ニ凋縮し武威は日ニ衰絶ならしむ、政教ハ治国之原、刑典は政教之幹、刑典不明は人民自由之権を不保、故ニ洋夷之禁令ニ模し違式詿違之目ありて、租税之格則苛酷ニ度て人民生を不聊、我貨財を費して彼我之伝信郵便を通し、我湾岬ニ燈台を装置して夷舶之来往を便ニし、内　皇国を費して外夷狄を資け、其窺窬を不注意して彼ニ聴ニ、我政体を可否するを以し、我瀕海を測置するを以し、我郡国を点検するを以す、所其為を観は、纔ニ偸安姑息を僥倖し一官途を貪ニ不過也、雖然　宝位は神祖之所制して、天下ハ固　神祖之天下也、而黎民何之罪辜ありて如斯苦艱ニ迷惑馳驟するや、実ニ長歎息ニ所不勝也、熟惟ニ今日之景況終ニ魯夷ニ不被併ハ必英蛮ニ所呑ん、亜戎ニ不為臣ハ則普虜ニ僕隷たらん、宜く鼂錯か亡国削地之策

ニ基き、鎖交之一定策ニ不如也、是固君子之甚所冀望ニして小人之最所忌悪也、蓋富国強兵は期して以所成之者ニあらす、又不期而所不成之者ニあらす、故ニ国を欲富則先無用之冗費を省減して土木を廃棄し、奢侈を禁して節倹を崇ひ、徭役を不煩して税歛を薄し、外国交接を制して商賈を廃、則国家立ニ富饒して而兵を強する之本ハ、固四時之猟狩を興して山野を馳駆し、攻守之格を正して奇正之闘争を学ひ、屯田を創して魯夷ニ備へ、山野を開墾して筋骨を錬り、敵国を存して兵備を厳ニすれハ、則兵雖欲不強豈可得哉、唯偸安姑息を墨守して曖昧糢糊（模）徒ニ歳月を経過して、釜中之魚鼈其眼之白なるを待んや、若一日も事を緩ニすれハ則十年之失弊を招き、一年之怠惰則百年之大害を醸し、皇国之人民将不堪、宜く廟議を決して可行之、若洋夷之万国窺窬之謀を夾ミ、戮力協心して我四辺を侵し、縦令鉄艦之数百千帯甲之数百万雖有、悉我人民を竭を得ん、縦令驍勇之百千敏捷、兵器之千万雖有、豈我軍を有犯哉、纔ニ郡邑を却して而抄掠を事するニ不過也、固蛮貊之情法禁之所用ニあらす、狼戻之胆彝倫之所施をのへんや、宜く以威厳其外を制するニ不如、普天之下卒土之浜豈無憂国之士乎、田夫野叟之中豈無忘身之民乎、彼若好戦ハ我則応之殺其魁師者募ニ以非常之位階賜ニ田土之賞を以し、又斬次将者ハ其勲功ニ随ひ官爵を賜ひ、普く遐邇ニ告け此賞を令知は魯夷以可攘、英蛮以可殫、亜戎以可鏖、何そ瑣々たる小虜之万里之波濤を凌暴せる者ニ於てをや、孫子且曰、五行ニ無常勝四時ニ無常位、日ニ有長短月ニ有死生と、豈碌々たる洋夷之兇黠ニ可恐哉、伏而冀ハ邦家　神明之徳を仰き孤立之勢形ニ輓廻し、国基を立紀綱を張和親を廃して武威を皇張し以万国ニ臨ミ、侮慢之罪過を声して責るニ大義を以し、圧るニ兵威を以し、我有備を以彼か不意ニ出、鷙鳥之疾毀折ニ至り、激水之疾漂石ニ至ハ縦令洋夷之剛強雖不可図何之不敗か此あらん、然則一鎖交ニして国本立て天下之民安す、富国之道興て強兵

之域可期、速ニ廟議を決し鎖交相成候様有御座度事、

奸臣誅戮之事

一奸臣之為害也最為大外国交際次之、何則交際之為事や外夷固奸臣ニ因て以其事業を逞し、奸臣又外夷ニ仮て以其邪曲を制す、故ニ奸臣と外夷之害以為不易軒軾、雖然外夷は積歳釁を我辺徼ニ窺ひ、我武徳之衰絶を待而乗之者也、奸臣は有先見之明、又能其備を予するを不知、却て以辺を啓き利を立、英俊豪傑之士を斥黜して浮華淫惰を事とし、外夷ニ諂諛して国本を立を不知、故ニ熟惟ニ奸臣之為害や有不可比擬者、国家之蠹賊不有甚焉者也、夫奸臣之用事や大概驕汰暗愚之主ニ不逢、則必幼沖孱弱之君也、故ニ茅野・上原二氏ハ上杉氏ニ於し、長坂・跡部二氏ハ武田氏ニ於し、赤松・細川二氏は足利氏ニ於し、皆驕汰暗弱之君ニ逢て其事を用ひ、其君を僵して己又従而亡者也、以此道井伊・久世・安藤之三氏は徳川氏之衰時ニ出て辺を啓て外夷を導き、利を貪て三港を創し、敷て六港ニ及す、於是乎　皇政維新ニ輓廻して実ニ戊辰之役あり、　維新之期ニ及て奸臣又傑起し、囂々として僅ニ唯徳川氏之簒奪を口議し、外夷之攘伐を声言して終ニ一時ニ僥倖し、其官を得ニ及て膚慮浅見天下之治体ニ暗く、亦以先帝之遺慮ニ悖戻し、外夷を不能制却以彼ニ諂諛して、以政教を彼ニ聽き妄ニ井蛙之見を以封建を解て制度を変替し、郡県を起して武威を絶滅し、一時之姑息ニ浸安して苟且之偸安ニ耽溺し、上代を醍酌(醍醐)し勢形を不審察、又宏大之制度を定め重厚之儀礼を不知制、猥ニ新聞を発兌して民俗を誑惑し、玩器を装作して国家を匱令し、終ニ租税を苛酷ニして刑典を酸刻ニす、於是乎人民聚歛ニ困苦し法令ニ不堪して、山梨・大分・敦賀等之騒擾あり、又方今之形状を観ニ政柄終ニ奸臣ニ陥り、人々容易不得議之、思慮必行其驕汰は山陵よりも高く、其淫欲は河海よりも深く、其暴悪は乳虎隼鶚よりも猛也、猥ニ官省を廃置し、擅ニ官人を取捨す、於是乎華士之家禄を剝削し、終ニ　宝位之廃立を議して

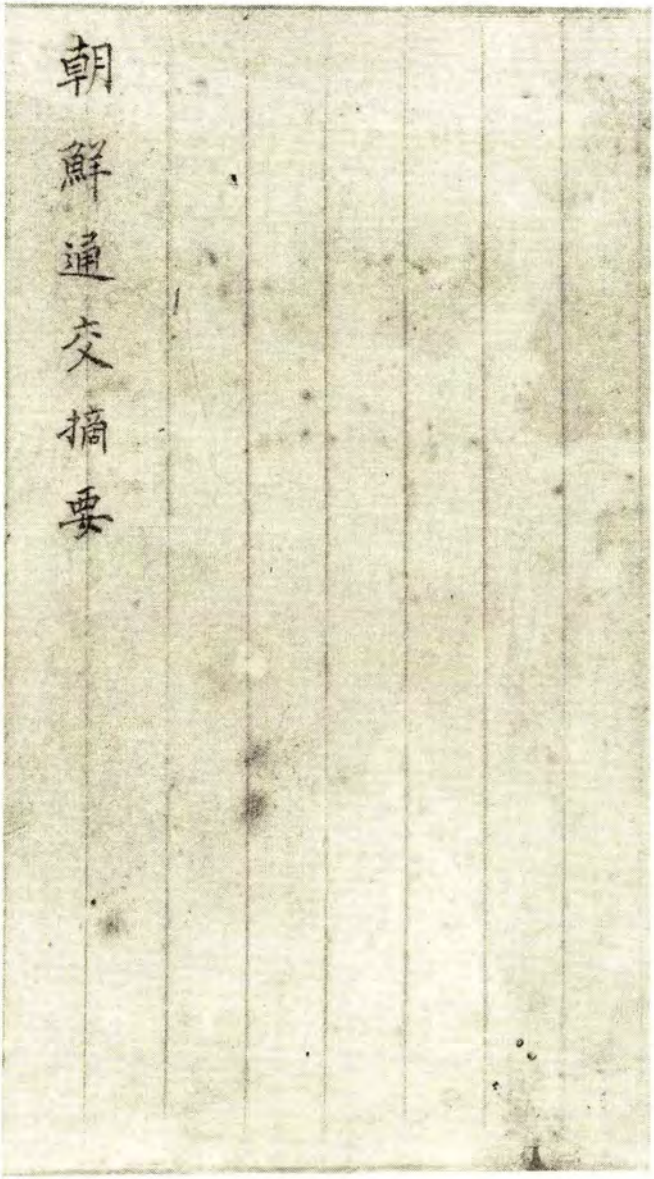
共和政治を大唱せんとす、天下之災害無大為者奸臣之兇悪、今日より無盛者雖憤其智を不得用、雖慨其力を不能施、国家之危急旦夕ニ迫て畳卵よりも甚敷、天下之亡滅今翌ニ近して薄氷よりも危し、是真ニ忠義之士最所慷慨悲憤也、而是此奸臣は有北も所不受、豺虎も所不喰、天地も所不容ニして、固井伊・安藤数氏之非所及、其罪平将門より最大者也、故ニ方今之急務国基を立紀綱を欲張ハ、先奸臣を梟磔し其三族を夷して天下ニ謝し、外夷を征して武威を皇張し、兵備を厳ニして惰風を覚破し、又租税を薄し刑律を省き、以浮華を禁し、天下之民庶を綏撫するニあり、雖然夫行之緩なれハ則其禍必蔓延して終ニ不可除、夫急之則其節短而千仞之名以畳卵を毀よりも安し、本邦之危急今日ニ切迫して又不有他日也、早く奸臣之首級を梟し天下安寧之基を立、人民綏靖候様有御座度事、

明治六年五月　　佐賀県士柴田洪平謹白

冊子原寸　縦二四・五糎　横一七・二糎　七九枚

三〇四三　外務省ノ朝鮮通交摘要

（表紙）



朝鮮國交通手續

一 對州ヨリ朝鮮ヘ交通ヲ定例ヲ以テ和吉約條
ハ未茲ニ四百年ヲ間補変化ナシト雖モ錦ヲ
飾ラレ位一君公和歸ヲ以テ後暫ク断絶セ
シ徳川氏ヲ初使ヲ位一来ル五月對州ヨリ交
通ヲ尋ク起ラル東
一 往使朱碑ヲ以ハ毎例我ヲ之城位一遣ル東
武ヨリ送リ幕府ヲ渡セ一ル所ヲ文化度之ヲ以
對州ニ接一ル朱當用ニ強ヒ一ヲ今ヲ以テ六十餘年

絶く末期の業なり　寛一　天正庚寅より文化辛未
迄五百修餘十六次第に相止むるなり
一　扶桑宗氏私家に殿堂を建て一生儀
を造るを例とせり　天庚申以来嘉永十餘年又
置く間に扶桑八年條定仕原民要述第仕
者は絶これ法式いたしなり
一　生後豪右二年新鮮法佛祭を常り米飯を供ち
者生人を害を因る佛界重会其罪を問ふの方
〜行り幕府佛祭法佛事は計り中條を落とん為あ
同三年法度を設きたこと　諸物をしく生合被通

世一ノ幕府役を来るの例なりとて之を拒
辞せり宮廷接来書中幕府役廃止上ノ儀ヲ
書通ノ幕使ハ名義ヲ以通ノ

一昨廿中原宗將馬ヲ吉成秀ノ大差役を派遣
を修めんるに付き其筆中「政権一切皇室ニ
返還奉勅」左通情共ヲ平松長其ノ他書参出
ヲ以て伝ヲ称ヲ伝ヲ云右
皇室奉勅ノ家ハ方中金笑中いまノ之ヲ用ヲ

何ニ而も右御國書案文ニ記載せん現すへく押印約

之所ハ殊ニ往復書簡判然ハ定メ此書簡ニ而ハ大人と

重を要きハ　とて接受不致候事

一　右後御判政府ニ庚午二月ニ到り東京府役當文

單簡　右ニ付く大ニ其儀ヲ進し

皇朝ニ與し宗を論難いたしてハ更

一　然とも在皇情ヲ以テ稱呼ヲ大ニハ承合し候

一　皇朝ハ宗旨ヲ用ひ候而両政府同等之權ヲ以て談

を用ひ交際を取結ひて然ル上ハ訓導江談合し來書

信を作りて同十月外務省出張官員ニ於て一ノ訓導

一右之面晴之儀不日の事

一辛未六月漂流人牧左を和館に召出し被棄
置候事

一宗書記対馬書を布茅釜山出仕に送りく外務
官員を歓接せらるんの式儀ひ一応承知仕旨
書面を以て

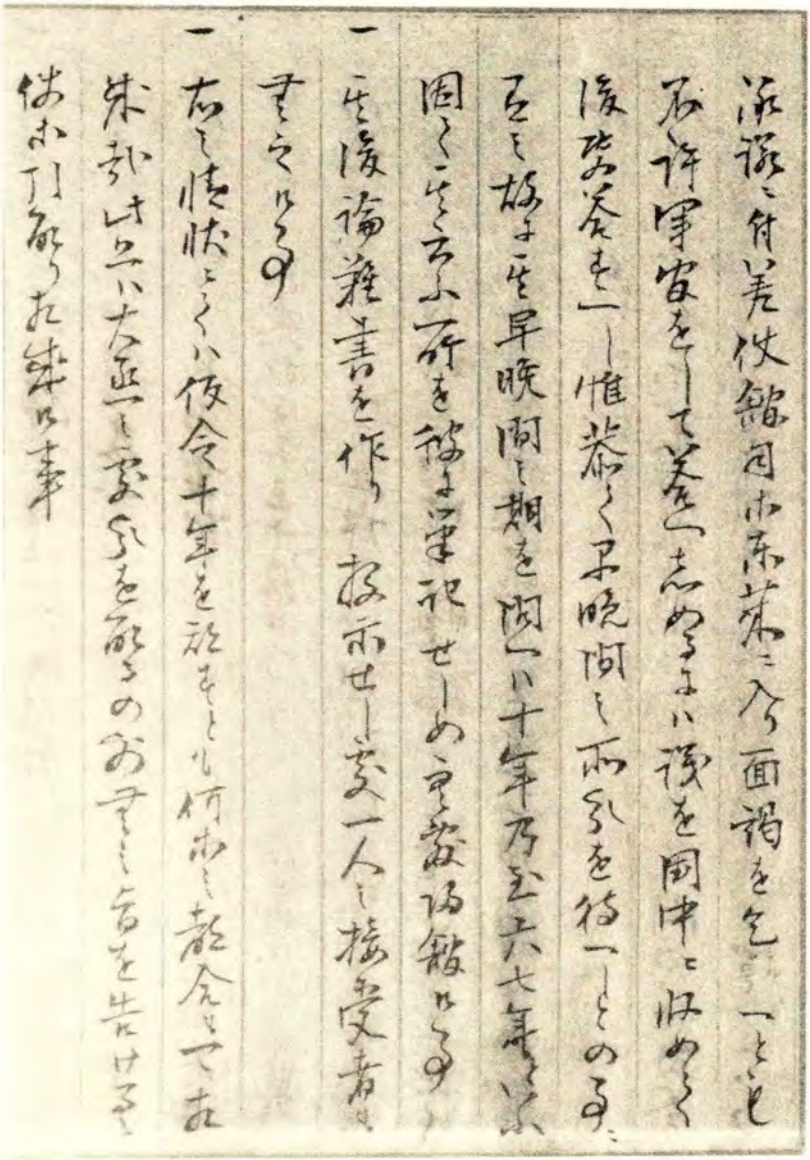
一同人書記前知事を止められ更に外務大丞に任せら
るる旨吳交の式営つき旨の告書に外務官
員布庫茅釜山出仕一面晴を請ふの書面を送り
是迄差置せ一大事件四年に付月を費し功成り候

一 新宅使宮崎鉄三郎より訓導に直接を請求せらるるも弦と九四回に及ぶとのことにて使上京後一考す

一 茶業下米に付出願書を寄附し来る四月を期し開場の板戸沙汰とす

一 右既日を追ひ二十五六日後に到り訓導下米の出張とは公幹に事は諏を田中に改め而して後茶業を益々拡張せんとの予晩山来月を定む可きとの沙汰

一 坂上に於て茶府使に接し茶業苦悶の情を陳ず



海陸ニ付差仗館内ハ不茶ニ入面倒を生一ときも
不許軍官をして差しむるハ後を固中に止めく
後茶を一ト惟恭く早晩問し而弘を待一ときの事
なり故を早晩問し期を問ハ十年乃至六七年ハ
固くこれを不許を待ち軍況せしめ京都仮館ハ
一生後論雑書を作り故而せし英一人し接受者
事なり
一右し情状ハくハ後今十年を経をとし何ハ故今ハて
朱弘ハ山口ハ大臣し変弘を解るのお事し告を告けて
仮ハ丁解り故弘事

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 家達私儀宗氏負債ニ付ハ別紙ニ分ハ勘定ニ相
渡ス
一 当分ハ藩ヲ以テ国民ニハ表ニ出ス迄ニ
一 右之目的ヲ達セン為メ一切格段ノ官費ヲ
用ヒサルヲ主ト稟議ヲ以テ渡ス

以上

一 右ハ不命ニ付ク明治申九月若殿様和務大臣
渡辺昇ヲ以テ宗氏旧代官ヨリ内務卿ヘ願出ル
別紙ニ宗氏旧負債ハ五万両ニ付借位ト証面ニ
ヲ以テ右証面ヲ以テ渡ス相ハ藩ハ五万両ニ付

入館ニ付右一代宮口体書[illegible]ニ変生書状
件ヲ不存生ニ[illegible]

一生徒一発ニ付解隊民を連帰リて仮板右一代宮分
ヲ入ル外ハ生病氣ニ入館難被仰渡候ハ更ニ仮手被
[illegible]ハ根形書[illegible]ニ付ニ通リ取計ひ[illegible]

一皆ク所任別差入館ニ付ハ先ハ初め館司ニ帯面い
たしハ旧例ニ変館司ハ兄六郎ハ六月ニ使一同ハ
茶府ヘ詰リ[illegible]を任外ニ正金ニ同人を館司ニ認めを
右書取[illegible]を仮ハ館司ハ一面倉設ニ[illegible]

一生徒同人使を被分館司ハ不認の分ハ旧例入達

し薪炭ハ一切撤供ス事

一 現今支ヘ借送し薪炭ハ一代限又ハ二代限ハ
役名し人へ渡ス事ハ旧文ニ書ス人員ハ
ニ名し差し出ス様ニ台中申ス事

一 別当ハ兼任ス未ル病氣ニ付出通ス崔主守名代
ヲ以入般廣瀬主行ス一代官ヲ務ヲ事を祝詞
奏用件ハ改台中ニ付帰京迄ハ一役台中ヘ
ハ変ス後般内し役し諸教授し官員ハ未ル
帰品ハ教授ヲ以ハ一ハ雇受台中申ス事

一 右ニ付一代官ヲ別当ハ帰京ハ教授ヲ申ス事

宗氏より差し渡し候ては受取方書面に文
代官方へ聞合候ては宋代官方へ書面をもとめ候ては
代官方へ聞合書面雑文取扱方相成候ては
書面を以て申出候事

一
岩州漂着之朝鮮人之儀延享四年二月二日岩州
円四郎谷山方湾に破船困難之韓人七名船内
一極ひ上げに付方漂民と一同吉塚へ参り引
渡に付方漂民入船雑設に付書面にて差出
様申達候ては不取扱候ては朝鮮制未整中方
氏より船内文書有之候ては二月十九日岩州東船内

無之ニ付茶屋仕舞軍隊右人入館右隙人等ハ自由ニ
ハ不成ハ尚当ハ館内ニ捕当て者ハ拘捕
令ニ成ハ生後三月十二日ニ新潟ニ自由ニ捜捕ハ
付右送物引渡ハ芸ハ板垣出張交渉ニ面ハ交換
ニ成通り取計ひ候事

一
飯直ハ唱ハ掃除人ハ人数ハ二十人ハ入館ハ
ハ常例ハ正本者ハ廣保弘任及ハ三井
組和代ハ渡御ハ外右館ハ一日入館ハ一度一付
撤市ハ形形館内ハ無之ハ

一潜者防塞方に托し東北釜山浦に仮り出張し門
將少通事御人共就を侮弊もるの情合書付を
差示し候事
一此九月己未陽氏い巡檢氏一行合て三十七名送授
仕候毎度少通事共取扱に而別差出一応
入報不致一紙に書面差出候事

十柳

國譯朝鮮條約類書

正統癸亥約條

一島主ノ處毎歳米大豆共ニ貳百石ヲ賜フ吏

一歳遣船ハ五拾隻ニ限テ限トス若シ止ヲ得サ

ルノヿアリ其所以ヲ報告スルトキハ則チ數

外ニ更ニ船ヲ遣ハヿヲ許ス事

正德壬申條約

一嶋主ノ処毎歳米大豆共ニ二百石ノ内七百石

ヲ減スル吏

一受圖書並ニ受職人ハ共ニ接待セサル吏

一島主歳遣船五拾隻ヲ減シテ二拾五隻ト為シ内大船九隻毎隻船夫四拾名中船八隻船夫三拾名小船八隻毎船々夫二十名ノ吏

一島主持送船ノ定額ヲ減シ若シ事アラハ則チ歳遣船中ニ付シ來リ告ル吏

一島主ノ子宗熊滿歳遣船三隻其大小ハ定メテサル吏

一嶋主ノ姪藏氏一船ノ吏

一受職人一人而歳遣船以下毎船上京一人更

萬曆己酉約條

一島主ノ処毎歳米大豆共ニ一百石ヲ賜フ事

一館待ニ三例アリ國王使ヲ一例トシ嶋主持送使ヲ一例トシ對馬受職人ヲ一例トスル更

一国王使出來ル時唯上副船ヲ許ス更

一島主持送船三隻ヲ以テ限トス若シ限外別ニ遣ルヿアラハ則十歳遣船ニ順付スル事

一島主ノ歳遣船定額ヲ減シ二十隻ト為ス更

一受職人毎歳一タヒ來朝シ別ニ人ヲ遣ルヿヲ

得ス

一平時受職人ハ則チ罪ヲ免ルヽヲ章トス令舉テ論セサル吏

一船ニ三等アリ二拾五尺以下ヲ小船トス船夫二十名二十六尺ヲ中船トス船夫三十名二十八尺ヨリ三十尺ニ至ルヲ大船トス船夫四十名尺量船體及ヒ船夫多シト雖ヒ定額ヲ過ルヲ得ス若シ否ラサレハ則チ黜数ヲ以テ科ヲ給スル事

一凡リ遣ル所ノ船ハ皆島主ノ文引ヲ受テ後チ

來ル吏

一島主ノ處前例ニ仍リ圖書ヲ給シ其模様ヲ紙ニ記シ禮曹及ヒ校書館ニ藏シ又釜山浦ニ置キ書契來ル毎ニ憑テ其真偽ヲ考驗シ格ニ違ヒ或ハ符驗ノ無キ船ハ送リ還スベキ吏

一文引無キ者ハ海賊ヲ以テ處断ノ吏

一遇海糧對馬人ハ五日ノ糧ヲ給シ島主持送人ハ又五日ヲ加給シ国主使ハ二十日ノ糧ヲ給スル吏

一他ノ吏件ハ一々前例ニ依ル吏

順治癸巳定式

一大廳開市外或ハ未タ計数論償ヲ盡サヽル時ノ吏アラハ則チ商價ヲシテ更ニ中大門ニ入ラシメ情ヲ盡シ論定テ即チ罷出前ノ如シ妄ニ各房ニ散入スルモノハ密商ヲ以テ論スル吏

一従前債ヲ負フ者一切法ニ置キ難シト雖氏士辰正月ヨリ始ヲ為シ潛ニ倭債ヲ用ユル者ハ多少ヲ論スルニ極律ヲ以テスル吏

一倭人ト相接スル時賣買既話ノ外濫上我国吏

情ニ及フ者ハ現ハルヽニ隨テ恥啓シ機務漏
泄スル律ヲ以テ論スル吏
一館門外東萊府使軍官釜山僉使軍官各一員擇
定シ日ヲ逐テ輪直シ訓導別差禮單譯官東萊
釜山任使吏民及ヒ東萊ノ標文ヲ受ルモノヽ
外無端出入スル者ハ現ルヽニ隨テ恥啓シ重
科ニ從テ罪スル吏
一常時出入スルノ人浪ニ我国吏情ヲ説話スル
者渠輩ヲシテ互ニ相識察シテ明白査覈セシ
メ告者直ナレハ賞ヲ論シ漏泄スル者ハ啓聞

シテ処スルニ重科ヲ以テスル事

一館中誠実ノ人皆根着ノ良民ヲ以テ擇定シ開市之日軍官両人外門ヲ守リ東萊監市軍官戸曹箕負東萊邑吏等皆ナ外大廳門ヲ守リ部將六人中大廳内門ヲ訓導別差小通詞ヲ率テ館内ニ入レ倭人外大廳ヲ出ハ則チ又其処ニ在リ中大廳ニ入レハ則チ仍ヲ隨テ入リ力ヲ合セ心ヲ齊フシテ潛商及ヒ各房ニ散入スル者ヲ防キ其禁ヲ犯ス者ヲ見テ來告セスシテ現露スルモノハ監守各人等一々馳啓シ論スル

二重律ヲ以テスル事

一在館倭人館門外ニ出スルト雖氏檀ニ前川ヲ越ルヲ得ス朝夕食スル所ノ魚菜并外私賣買外如シ鹽ニ他物ニ及テ而シテ現露スルモノハ軽重ニ従テ罪ヲ決シ軍官小通詞部將等ハ馳啓シテ罪科ニ當ツヘキ事

右府使任義伯約定啓聞ス

・同年倭書定式

一商賣賣買ノ外一切債ヲ給スルヿヲ得サル事

一館中火ヲ禁スル事

一輕重秤子ヲ用ユヘカラサル吏

一軍器禁物ヲ賣ル可カラサル吏

一送使ヒ來ル者朝鮮人ト爭論相較スベカラサル吏

一銀子ヲ假作ス可カラサル吏

一手標無キニ倭人混同出入スルヲ許サヽル吏

一凡倭人ノ朝鮮人ヲ相接スル恭敬ヲ極ムベキ吏

一館門出入必ス館主ニ告グ可キ吏

一島中往來書札日本吏情ニ及フ不可吏

一倭船風ニ値ハヽカヲ極テ往テ救フヘキ吏

康熙癸　制札

一禁標定界之外大小吏ヲ論スルナク闌出犯越スル者ハ論スルニ一罪ヲ以テスル事。

一路浮税現捉之後與者受者論スルニ一罪ヲ以テスル吏

一開市ノ時潛ニ各房ニ入ル者密ニ買賣スル者彼是各一罪ヲ施ス吏

一五日雜物入給スル時邑吏庫子小通吏等倭人切ニ扶曳敲折ス可カラサル吏

馬島奉行平真賢等五人名ヲ書シ來テ石ニ刻
シ碑ヲ定界ノ処ニ竪ツ

辛卯約條

一在館倭人館ヲ出テ強奸スル者ハ一眼ヲ以テ
論断ス

一私奸及ヒ強奸未タ不成者永遠流竄ス

一女人館ニ入シヨリ淫奸セラルヽ者ハ[illegible]
以テ施行ス

康熙丁亥草梁村ノ女在館倭人ト交奸ス女
ハ則チ我国ヨリ梟示シ犯倭ハ則之レヲ以

テ律ヲ同フ
シメント欲スレ
ト累年
ス辛卯ノ時ニ至テ定約ス

日本国對馬州大守拾遺平　義達　奉書

朝鮮国禮曹参議大人　閣下

暑厚

華翰就諦

啓居珍毖傾慰良深所

示戰鬪一欵臚列顛末副以所見既已稟

啓

東武則

定議以為去秋法国之閑衅也實出于不虞
不啻唇齒相患抑於
鄰睦世敦之誼憂恤那有措哉欲使
貴国永計綏安者此
東武感意所在也不佞在職曷任感戢今番
有使鄙至
貴国之
命
東武官員身親開陳時務則在
貴朝豈無宜當之処置耶覘縷叟實要在

使節陳述何待多及総惟
照亮粛此不備
慶應三年丁卯六月　日
対馬州太守拾遺平　義達

日本国対馬州太守拾遺平　義達　奉復
朝鮮国禮曹参判大人　閣下
遠業
芳緘慰審

興居清迪欽慰良深所
示辞意斯速轉
啓
東武則其説果是荒誕虚妄毫無形迹此等
流言囂々殆為煩
貴朝於我豈契然耶抑我
大君殿下丕撫區域旧弊斯除百度一新文武
庶眞賛成謀議夙夜唯以張皇
国威為目令急購其砲艦器械於海外給我
冨国施兵之資者往々皆然安知非流言之

所以由來哉

本邦之於

貴国世敦

鄰好共揆綏寧有

台慮所以騰々於今日也至暴虎不法之説

不足信也彰々矣及聞法国戰關吏

鄰誼相孚唇齒相依豈可泛視于其間耶

用是恤念無措欲使

貴国永獨後來之憂虞也故這回特

命

使節遠至
京畿閑陳宇内形勢則在
貴国亦當料酌時務處置適當者此
東武威意所存也
使節既戒行李趨溟在迩
東武敦篤意實総在陳述則如彼偽妄無根
之説渙然氷解
両国交際永帰不渝
嚴命之下如此不倦在職實可感戚餘冀
崇照肅此不備

慶應三丁卯八月日

對馬州太守拾遺平　義達

覽

一頃因口陳以　東武　崇使之由另稟　萊府轉達　朝廷矣今兼　回下則以為　東武厚誼實是感佩然曾以年支之將歉有懇聘礼之緩期者而且洋擾總經凡務方剿疫氣流行黨深遍甚此時接　儀實屬難慎故回答書笑中亦有懇辛[illegible]

幸須以此　諒悉詳報　貴州轉告　東武無至
耑使越溟叟帰順便之地千万是祈
訓導俊卿安貪知
別差德民玄主簿
講信大差使
都船主　尊公
令夏以
東武使停寢叟公幹非止一再而至有我礼曹書契

中添句之舉而況　尊公職在幹吏中歸則幹旋之
方想不虛徐也僕芹跂俟　回音這間四五箇月意
謂　使吏之已寢矣今見　書示則滿紙臚列惟始
料之所未及而多宛說不得之語此或弊邦東戀之
未孚而然欤　貴州周旋之悠泛而然欤茅念
東武遣使為出於　眷鄰　感意則謝不容筆感不
以言而須於書契中仰懋者非但迎送煩弊之為念
交隣章程係是両　国先世之述作而三百年誠信
愈寓賴以後人之典守也今此　東武使節是旧約
之所未有則章程一毀約條難守可不慎哉迹因洋

船之出没遠近
貴国之長崎交易幣邦之江都鄙却各有措処尓相
通報者也今我深海諸防設備益嚴固無貽慨於
鄰国則自
東武尓何須遠労　神恩遣使超須弥且交隣疾務
之專管於　貴州自是不易之旧約也今若此機密
之吏或恐泄漏不使聞標於　貴州云者例使之外
漂差与大差使行相続出來又有將來之大差両使
裁判両次則幣邦館接之節未有若此時稠疊也其
於恤隣省弊之誼莫當為　加意斡旋而如有　商

議吏則開春海官入去時粉盡俾當未爲不可也惟
望　尊公之參量吏弊紙始力圖期於佛　使之地
而多少吏狀備告于　使道前則答敎如右故玆以
敷陳　洞諒是希

丁卯十二月　日　　訓導俊卿安僉知

別差德民玄主簿

幹事官　尊公